

第10回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会会議録

日 時：令和7年3月13日（木）午後7時～午後8時15分
場 所：東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

- 1 開会
- 2 会長（区長）あいさつ
- 3 議題
 - (1) 令和6年度活動報告について
 - (2) 淡路駅エリア計画 Ver1.0について
 - (3) 令和7年度活動予定について
- 4 その他 規約の改正（組織構成の変更）について
- 5 閉会

《配付資料》

- ・資料1 協議会座席表
- ・資料2 活動報告および活動予定
- ・資料3 エリア計画（素案）作成に向けた地域意見の聴取
- ・（参考資料1）淡路駅エリア計画の骨格
- ・（参考資料2）淡路駅エリア計画の骨格に対するご意見
- ・資料4 協議会規約の改正について（案）
- ・（参考資料3）東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会規約（改正前）

1. 開会

2. 会長（区長）あいさつ

3. 議題

(1) 令和6年度活動報告について

（事務局）

- ・まちづくり構想部会については、奇数月の第2木曜日を定例開催としている。広く区民の理解を深めるため、昨年7月の第50回部会より傍聴を可能とし、公開透明性、情報発信を強化した。
- ・昨年5月の第49回部会において、連続立体交差事業などの進捗にあわせ、令和8年度末までに各地域でアクションプランを作成するという目標を確認し、各地域のワークショップなどにおいて、将来のまちのすがたについてご議論いただいた。
- ・今年度は特に、新大阪駅周辺のまちづくりに関して大阪府市が作成する「淡路駅エリア計画」について地域のご意見を反映するために、構想部会などでご議論いただいた。詳細は後ほどご報告させていただく。
- ・新大阪東口部会については、今年度は開催されなかったが、北陸新幹線の新大阪駅への接続など、計画の動向を注視していきたい。

(2) 淡路駅エリア計画 Ver1.0 について

（事務局）

- ・「淡路駅エリア計画」は、「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域協議会」が作成する「新大阪駅周辺まちづくり方針」を構成する計画である。柴島浄水場機能集約の始動を契機として、新大阪に近接した場

所に大規模な開発用地の存在を早期からPRし、良好な都市開発プロジェクトを誘致していくため、早期に「淡路駅エリア計画 ver1.0」をとりまとめることとしている。令和6年8月に「新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会」において「淡路駅エリア計画の骨格」を確認した。

- ・地域の皆さまからのご意見を踏まえたブラッシュアップや関係者間での調整等を経て、令和6年度末に「エリア計画（素案）」をとりまとめることとなっている。

(3) 令和7年度活動予定について

(事務局)

- ・まちづくり協議会につきましては、来年3月13日に各部会の活動報告を予定している。まちづくり構想部会について、部会の開催時期はこれまでと同様に2か月に1回、全6回を予定している。
- ・事務局の区役所としましても、各地域でのワークショップの開催やアクションプランの作成支援をより積極的に行ってまいります。
- ・新大阪駅東口の検討については、新大阪駅周辺のまちづくり事業の動向を踏まえて検討を進めてまいります。
- ・関連まちづくりに関する具体の検討が、令和8年度以降にできるように、検討組織の設置についても検討してまいりたいと考えている。
- ・令和7年度は東淀川区創設100周年にあたる。100周年記念のまちづくり関連イベントを企画する予定なので、皆様のご協力をお願いしたい。

((1) から (3) を通じて質疑応答)

(淡路地域)

- ・阪急淡路駅の自転車の問題については、淡路駅周辺自転車対策協議会を立ち上げて、東淡路と淡路の地域活動協議会で対策を検討しているところ。阪急にも入っていただいて、駐輪場の台数の確保したうえで、淡路の自転車のマナー、自転車文化をしっかりと築いていきたいと考えている。

(東淡路・柴島地域)

- ・東淡路・柴島地域では、2月22日に住民20数名が参加し、第1回目のまちづくりの話し合いの会を開催した。若い人からお年を召した方まで、色々な方の思いをお聞きした。地域住民全員に通底しているのは、人間中心、住民主体のまちづくりを実現できるようにしてほしい、ということ。経済優先ではなく、人にやさしい、防災・防犯など安心して暮らせるまちに。過去の大阪市がハコモノ中心のまちづくりをしていたこともあり、民間投資による開発に対する懸念を感じている。説明を聞いていると、まだ時間がありそうなので、地域住民中心に本当のまちづくりを進めていただきたい。
- ・地域の会館の建替がもうすぐ完了するので愛称を募集したところ、63人も応募があった。愛称について理由をきいたところ、「人と人とがふれあって、笑顔があふれる地域に」、「昔、子どもの頃に地域の保育園があって、近くに集まっていたお年寄りの方たちが話しかけてくれた思い出があり、今は自分が母親として暮らしている」といったお話をたくさん伺うことができた。皆さんが地域のことを考えてくれていて、ということがわかって温かい気持ちになった。これからもしっかりとまちづくりをやっていかなければならないと思った。

- ・阪急淡路駅の駐輪場、自転車対策は必要だと思う。そこに暮らす住民が主体になったまちづくりをお願いしたい。

（豊新地域）

- ・住んでいる地域によっては上新庄駅、淡路駅が利用できるのも利便性が高くなるのは嬉しい。ただ、利便性だけでなく、まちのにぎわいやふれあいも一緒に良くなるように。
- ・梅田もそうだが、最近はウォーカブルなまちづくり、歩いて自然を楽しむのがまちづくりの主流になってきているようだ。新大阪につながってくると、車の行き来も増えてしまうので、駅の周辺だけは、自転車や歩行者がゆっくりと歩ける形をめざしていただきたい。
- ・あわせて駐輪施設の充実と安全面について、検討いただきたい。

（新庄地域）

- ・イズミヤの跡地にマンションが建ち、約 270 世帯が入居したが、新小学 1 年生はゼロで驚いた。今後、少しは増える可能性があるが、少ないだろう。大阪市全体では微弱だが、地域では少子化が進み、お年寄りがますます増えていくだろう。
- ・各駅のバリアフリー化が進んだが、新庄駅は昭和 48 年にエスカレーターが設置されたあと、エレベーターはまだ無い。
- ・先日、まちづくり協議会を立ち上げた。上新庄団地の解体も始まる。人口が増えないなら、跡地をうまく活用し、住みやすいまち、バリアフリーまちづくり協議会の方向性とマッチするようなまちづくりを進めていきたい。

（菅原地域）

- ・菅原地域は数年間こちらの会議に参加していなかったことをまずはお詫びする。当初は参加していたが、淡路駅周辺の再開発が 20 年位前から遅々として進まず、この協議会も時代のスピードに全然ついていけない協議会との判断だったものと思う。時代の変化がスピーディーなのに、この協議会は何を話しているのだろうと正直思っていた。阪急淡路駅と南側の再開発が最初のイメージとかけ離れており、阪急淡路駅と JR 淡路駅がなぜ離れてしまったのだろうと思う。今、人の流れがすごく変化した。もっとスピーディーに対応してほしい。
- ・地域としては、阪急の高架下に集会所が欲しいという希望がある。

（啓発地域）

- ・今住んでいる人がこれからも住み続けていけるように、また子育て世帯が定住できるように、という意見が多かった。地域の新・旧がうまく融合するにはどうしたらいいのか、という不安な意見もあるが、世代別に意見を聞きながら、住みやすいまちづくりを進めていきたい。

（下新庄地域）

- ・おかげさまで、区役所、コンサルタントの協力を得て、アクションプランの叩き台が出来上がってきた。このあと地域で最終的に詰めて、正式に公開できると思う。地域としては、これまで子ども達や高齢者の居場所づくりや地域住民の孤独の解消のための取り組みなど、十分にやってきたと感じている。それらの活動を今後も継続していきたい。

- ・最近、下新庄駅周辺が急激に変わってきた。工事に合わせて小学校の前は時間制（7:30～9:00）の規制道路になっているのに車が突っ込んでくる。一部の方からのクレームにより立て看板が撤去され、小さな標識しかなく、一見普通の道路に見えるので分かりづらい。登下校時の子ども達を守るために立ち番をしているが、我々が命がけで車を止めなければならない状況になっている。子ども達のために安全確保をお願いしたい。
- ・踏切部分が盛り上がり、かなりの傾斜で距離も長くなっている。お年寄りが渡り始めたら警報音が鳴って渡りきれないことにもなりかねない。
- ・踏切がなくなって車道が広くなれば、走りやすくなって車のスピードも上がり、交通量も増えるなどの危険がある。歩道と車道を縁石だけではなく柵を設けるなどしてハッキリと分ける、などをお願いしたい。
- ・地域の老人会（「福寿会」）ではカラオケ、麻雀、民謡、ディスコなどの活動をしているが、「老人憩の家」は2階にあり、玄関先と建物の間にすき間があったり、階段も急で、お年寄りが利用するには向いていない。1階で活動できるよう、高齢者だけでなくみんなが集える場所を、阪急の高架下にぜひとも集会所が欲しいという希望がある。
- ・アクションプラン完成後も、地域の方針に基づいて活動を続けていきたい。

（西淡路地域）

- ・西淡路地域と、まちづくり構想部会の部会長としての2つの視点から意見を述べたい。
- ・①まちづくり構想部会では、膝詰めでも自由に話しあっていて、私はそこが良さだと思っている。住民参加のまちづくりを、区役所など行政、企業、それぞれの関係者と一緒に議論しながら進めていく。住民参加を守る枠組みづくりをこれからも続けていく必要があると思っている。
- ・②居住は自己責任という考え方から、居住は人権だという考え方で住民参加でまちづくりをしていくという視点をこれからも持ち続けたい。新大阪駅周辺のまちづくりのキャッチフレーズには1,200件の応募があった。なかには「つながるまち、広がるまち、新大阪」というものもあった。東淀川区には被差別部落がある。被差別の側から、差別を乗り越えていく、つながりのまちづくりをしていきたいということで、西淡路でもアクションプランを作ってきた。その延長線上で、阪急と一緒にNPOを立ち上げてバスを走らせたり、皆さんに参加型のまちづくりで、人権のまちづくりを進めてきた。歴史的な経緯を踏まえ、しっかりと人権尊重のまちづくりという文言をエリア計画に含めてほしい。
- ・③大阪市は、昨今、民間に任せられるものは民間でという傾向がある。とはいえ、公の責任というものをしっかりと果たしてほしい
- ・④国のほうでも都市再生緊急整備地域の議論も進んできているが、我々バリアフリーまちづくり協議会の意見をできるだけ反映してほしい。区長も胸を張って地域の意見を伝えてほしい。
- ・まちづくりにはソフト・ハード両面あり、地域の福祉計画を市民局が作ったり、子ども青少年局が子育ての実態調査を行ったり、市民局が女性活躍推進行動計画を作ったり、さまざまなことが、このまちづくり協議会に反映されるべきと思っているので、そろそろ「バリアフリーまちづくり協議会」の名称から「バリアフリー」を外してもよいのではないかと思います。

- ・新大阪駅のことが大きく影響し、新大阪のエリア計画が中心になってくると考えると、JR西日本にも参加してもらいたいと思うので、区長からも強い要請をしていただきたい。
- ・福祉法人前の公園を活用しながら、新大阪から淡路駅のエリア計画を考えていきたい。
- ・新大阪駅周辺の余剰地の利活用についても東口部会でしっかりと議論していきたい。
- ・下新庄駅周辺は新幹線の上を阪急電車が通るという珍しい場所。まちづくりの大きな目玉になると思う。

（会長）

- ・この協議会でいただいた意見は、国のほうに、計画に反映できるよう、精一杯努めてまいりたい。
- ・人権尊重のまちづくりは、重要なキーワードだと思っており、住民主体のまちづくりは非常に大切なことだと思っている。お互い共感力のある、心と心がふれあうあたたかいやさしいまちづくりを、みなさんめざしておられて、めざす過程でいろいろ課題が出てきていると感じた。

（久教授）

- ・おおさか東線が開通し、ようやく具体的なものが見えてきた。これからが勝負。今までどのような方向性を地域の人みんなで共有してきたかが大切。これまで土台を作ってきたことが根付いて、ボクシングでいうところのボディブローのように効いてくるのではないかと思う。
- ・個別の事業に目が行きがちだが、地域の人みんなで共有してきた大きなまちづくりの方向性を見定めてこそ、それぞれの事業がバラバラにならずに済む。民間の開発事業者と話しているときに、「それ、どこに書いてあるのですか？あなたの思い付きなのでは？」と言われることがよくある。そうした時に、「10年前に地域の人みんなでまちづくりの方向性を決めているので守ってください」と言えるよう、勝手にされないようにしっかりと方向性を見定めておくことが、今後効いてくるのではないかと思う。駅周辺や浄水場跡地、未利用地など、みんなで決めたまちづくりの方向性に合わせて作ってもらう必要がある。
- ・私の祖父も60数年前にこのあたり（現在の淀川区宮原）に住んでいたが、区画整理事業で千里丘に移った。地権者は事業に関わることはできるが、借家住まいの住民は出ていかざるを得ない。思えば、新大阪周辺地域はビッグプロジェクトに翻弄されてきた経緯がある。ビッグプロジェクトは市全体として必要だが、長年そこに住んでいた人たちはどのように取り扱われるのか。これからはそうならないよう、住民が住み続けられるような、ビッグプロジェクトと住み続けられるまちが共存できるようにしていく必要がある。
- ・新大阪駅は西側が開発され、オフィスやマンションが立ち並び、東側がウラ扱いされている。しかし、個人的には西側のような開発は望んでいない。取り残されたという言い方を、ポジティブに考えれば、思い出と人情を大切にできる場所が残ったということだろうと思う。新大阪駅西口は、すっかり様子が変わってしまって、思い出という観点から言うともうあまり残っていない。東側は思い出がしっかり残っている地域である。思い出と人情を大切にしながら、どういうように、このビッグプロジェクトとうまく共存できるか、というところの勝負が、この地域の特徴の一つでもあるのかと思う。
- ・今回のビッグプロジェクトでは、翻弄されないように、しっかりと我々の要求ニーズも伝えながら、思い出もしっかり残しながら、未来のまちづくりにつなげていきたい。いいまちづくりを一緒にさせてもらいたいと思う。

(3) 令和7年度活動予定について

- ・ 令和7年度の活動予定について、異議なし。

4. その他（規約の改正について）

- ・ 協議会規約の改正について、異議なし。

(久教授)

- ・ これからますます色々なものが動いていくので、1つ1つの事業を、みんなで作ったまちづくりの方向性に合わせて作っていけるように、一緒に進めていければと思う。

5. 閉会

以上